

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立	授業の種類 講義	授業担当 ①伊藤、②成田	実務経験有 ②老健清流苑に介護福祉士として勤務
授業の回数 15	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1年 後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間の多面的理解と尊厳の保持、自立・自律した生活を支える必要性について理解することをねらいとする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>「人間の尊厳」「自立・自律」の概念について理解し、介護における尊前保持と自立支援の実践ができるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間の尊厳と福祉 2 " 3 人間の自律と自立 4 " 5 社会福祉と介護福祉士 6 " 7 人間のもつ様々な側面 8 " 9 その人らしい幸福に寄り添うために 10 尊厳ある状態を支える介護 11 " 12 介護における人権と尊厳 13 " 14 介護における自立支援 15 " 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『人間の理解』中央法規出版 参考『人間の理解』メヂカルフレンド社 『介護福祉用語辞典』中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業の出席状況、学習態度、試験、レポートなどを総合して評価する。 採点評価は60点以上を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係とコミュニケーション	授業の種類 講義	授業担当者 ①宮崎 ②田中	実務経験有 ②太田総合病院に看護師として勤務
授業の回数 30	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 1年 後期	必修
[授業の目的・ねらい] 自己理解と他者理解を深めることにより人間理解につなげていくこと、その上で人間関係の形成のためのコミュニケーション能力を修得することを目的とする。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] コミュニケーションの意義を学習し、コミュニケーション能力の基盤をなす情報の受け私には様々な方法があることを理解し、適切な受渡方法を選びとることが出来る力をつける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1～3 人間関係の心理 4～6 人間関係形成のプロセス 7～9 対人関係とコミュニケーション 10～12 コミュニケーションの様々な様態 13～15 人間関係を育てるコミュニケーション 16～17 人間関係とストレス 18～20 組織におけるコミュニケーション 19～21 介護現場で求められるチームマネジメント 22 介護実践におけるチームマネジメント 23 ケアを展開するために必要なチームとその取り組み 24～25 チームでケアを展開するためのマネジメント、最大化するためのマネジメント 26 介護福祉職として求められる実践力 27～28 介護サービスを支える組織の構造、機能、役割、管理 29 演習問題 30 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 『人間の理解』中央法規出版 参考『人間の理解』メヂカルフレンド社、 『介護福祉用語辞典』中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 授業の出席状況、学習態度、試験、レポートなどを総合して評価する。採点評価は、60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解	授業の種類 講義	授業担当者 ①宮崎②成田	実務経験 有 ②老健清流苑に介護福祉士として勤務
授業の回数 15	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1年 前期	必修
<p>[授業の目的・狙い]</p> <p>個人が自立した生活を営むということを理解する。 わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解する。 社会保障制度を身近な存在として理解できる視点を持つようになる。 介護保険制度と障害者自立制度が、高齢者や障害のある人の生活の中で実際にどのように活用されているか理解する。 介護実践に関連する諸制度を学び、これから介護を実践していく上で、必要な基礎知識を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1 社会と生活のしくみ 2 生活の基本機能、ライフスタイルの変化 3 家族の機能と役割 4 社会・組織の機能と役割 5 地域社会、地域社会における生活支援 6 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 7 地域福祉の発展 8 地域共生社会 9 地域包括ケア 10 社会保障制度の基本的な考え方 11 日本の社会保障制度の発達 12 日本の社会保障制度のしくみ 13 現代の社会保障制度 14 高齢者保健福祉の動向 15 高齢者保健福祉に関連する法体系</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『社会の理解』中央法規出版 参考『社会の理解』メヂカルフレンド社、『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業の出席状況、学習態度、試験などを総合して評価する。 採点評価は60点以上を合格とする。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解	授業の種類 講義	授業担当者 ①宮崎②成田	実務経験 有 ②老健清流苑に介護福祉士として勤務
授業の回数 15	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 2年 前期	必修
[授業の目的・狙い] 個人が自立した生活を営むということを理解する。 わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解する。 社会保障制度を身近な存在として理解できる視点を持つようになる。 介護保険制度と障害者自立制度が、高齢者や障害のある人の生活の中で実際にどのように活用されているか理解する。 介護実践に関連する諸制度を学び、これから介護を実践していく上で、必要な基礎知識を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1 介護保険制度の創設の背景と目的 2 介護保険制度の動向 3 介護保険制度の概要とそのしくみ 4 介護保険制度における組織・機関の役割 5 介護保険制度における専門職の役割 6 障害者の自立支援制度創設の背景と目的 7 障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解 8 障害者自立支援制度にかかわる組織、団体の機能と役割 9 介護実践にかかわる諸制度、介護福祉士の業務・養成について 10 保健・医療関係機関について知っておくべきこと 11 利用者が受ける保健・医療サービスに関連して知っておくこと。 12 高齢者・障害者・児童の福祉に関連して知っておくべきこと。 13 利用者の所得や医療の費用負担に関連して知っておくべきこと 14 利用者の権利擁護の観点から知っておくべきこと 15 利用者の所得者や医療の費用負担に関連して知っておくべきこと まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 『社会の理解』中央法規出版 参考『社会の理解』メヂカルフレンド社、『介護福祉用語辞典』『福祉小六法』中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 授業の出席状況、学習態度、試験などを総合して評価する。 採点評価は60点以上を合格とする。	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間と社会福祉一般	授業の種類 講義	授業担当者 成田	実務経験 有 老健清流苑に介護福祉士として勤務
授業の回数 8	時間数(単位数) 15	配当学年・時期 2年・後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>一人ひとりが自立と自己実現を果たせる心豊かな成熟社会になっていく人権に基づき、個性尊重の介護を福祉文化として捉え、それぞれの局面から幅広く、総合的にまとめ、学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護福祉使用テキスト全般を基に、生命、対人関係、生き方、さらにはめまぐるしき変化をたどっている、社会保障関連の観点から、総合的に理解を深めることを到達目標とする。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間の理解、 2 介護の基本 3 社会の理解 4 コミュニケーション技術 5 生活支援技術 6 介護過程、介護総合演習 7 発達と老化の理解、認知症の理解 8 障害の理解、まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 参考 メジカルフレンド社 最新介護福祉全書シリーズ1～12</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 授業出席状況、学習態度、試験、レポート等を総合して評価する。</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） レクリエーション	授業の種類 講義・実技	授業担当者 滝田	
授業の回数 2 3	時間数(単位数) 4 5	配当学年・時期 1年 前後期	必修
[授業の目的・ねらい] 社会福祉分野や地域社会において、生涯スポーツとレクリエーション活動に役立つ基本的な実践方法の理論と実技を学ぶ。現代における余暇の増大と平均寿命の伸びにより、レクリエーションが日常生活に密着し、その活動を推進させて支援する指導者を育成することを目的とする。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 地域社会のボランティア等に参加し経験を踏まえ、社会福祉施設や地域社会等において指導能力を向上させる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 前期 1 オリエンテーション レクリエーションの意義 2 コミュニケーション・ワーク(アイスブレイキングとは) 3 目的にあわせたレク・ワークとは。 4 レクリエーション運動を支える制度 5 レクリエーション活動の安全管理 6 7 演習1「ソング・ダンス」 8 コミュニケーション・ワーク(アイスブレイキング方法) 9 ライフスタイルとレクリエーション 10 素材・アクティビティの選択 11 少子高齢社会の課題とレクリエーション 12 素材・アクティビティの提供 13 コミュニケーション・ワーク(ホスピタリティとは) 後期 14 15 演習1「ネイチャーゲーム」 16 指導実習1 17 レクリエーション事業とは 18 地域とレクリエーション 19 対象者間の相互作用の活用方法 20 指導実習 21 演習2「パーティーの企画・演出」 22 事業計画I「事業を介して個人にアプローチする事業の作り方」 23 レクリエーション演習			
[使用テキスト・参考文献] 「レクリエーション支援の基礎」 日本レクリエーション協会		[単位認定の方法及び基準] 授業の出席状況、学習態度、 グループワーク活動の成果、試験等の成績を総合して評価する。採点評価は、60点以上を合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） レクリエーション	授業の種類 講義・実技	授業担当者 滝田	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 2年 前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会福祉分野や地域社会において、生涯スポーツとレクリエーション活動に役立つ基本的な実践方法の理論と実技を学ぶ。現代における余暇の増大と平均寿命の伸びにより、レクリエーションが日常生活に密着し、その活動を推進させて支援する指導者を育成することを目的とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>地域社会のボランティア等に参加し経験を踏まえ、社会福祉施設や地域社会等において指導能力を向上させる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レクリエーション演習実践とは 2 事業計画「市民を対象とした事業 のつくり方」 3 対象にあわせたレク・ワークとは 4 事業計画Ⅱ「市民を対象とした事業のつくり方」 5 対象にあわせたアレンジ方法の応用 6 演習2「プログラム展開案の作成」 7 演習2「プログラム展開案の実施」 8～12 レクリエーション演習 指導実習 13 レクリエーション・インストラクターの役割 14, 15レクリエーションの実践 プログラム企画、実施、評価 成果発表 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「レクリエーション支援の基礎」 日本レクリエーション協会</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>授業の出席状況、学習態度、 グループワーク活動の成果、試験等の成績を総合して評価する。 採点評価は、60点以上を合格とする</p>	